

ツーリズム EXPO ジャパン 2014 報告

国連世界観光機関（UNWTO）タレブ・リファイ事務局長は、2014年9月26日に開催されたツーリズム EXPO ジャパンの開会式で、各国の観光担当大臣や主催団体代表者と共にテープカットを行い、「Tourism and Community Development ～旅の力で地域を元気にする～」をテーマに基調講演を行いました。その後のパネルディスカッションでは「オリンピック・パラリンピックを利用した観光振興～2020年以降の日本の姿とは～」をテーマに英国政府観光庁会長クリストファー・ロドリゲス氏、オーストラリア政府観光局局长ジョン・オサリバン氏、日本政府観光局理事長松山良一氏と共にディスカッションを行いました。リファイ事務局長は、2020年の東京五輪のようなメガイベントに牽引される観光は、地域社会に大きな可能性をもたらすものであり、官民及び地域の人たちが一丸となり、当事者意識を持つことが大切であると述べました。また、観光は雇用を創出し、生活を向上させ、教育を充実し、貧困の軽減に貢献する存在であると強調しました。



また、同日のツーリズム EXPO ジャパンにおいて UNWTO アジア太平洋センター及び一般財団法人アジア太平洋観光交流センター(APTEC) は UNWTO シルクロード部と連携し、「シルクロードロードにおけるカルチャル・ツーリズム（文化的観光）の成長と日本のアウトバウンド市場における機会」をテーマに特別セミナーを開催しました。

冒頭に、UNWTO リファイ事務局長及び観光庁山口裕視次長から開会挨拶を頂き、その後、ゲストプレゼンターとして国際的なテレビ番組 グローブ・トレッカー（Globe Trekker）のナビゲーターを勤めたホリー・モリス氏が「旅行者の心を掴む時間を越えたマジカルなシルクロード・トラベル・ルート」をテーマに講演を行いました。また UNWTO 本部シルクロード部のジョアンナ・デバイン氏は「シルクロード部の現状と未来展望」をテーマに、1994年のサマルカンド宣言から20年が経過したことを踏まえ同部におけるシルクロードの歩みについて説明しました。またシルクロードに関係する官民4名の講演では、日本の送客市場のさらなる成長を目指し、ステークホルダーがいかに協働すべきかについてのプレゼンテーションが行われました。その後のパネルディスカッションでは、Gen C Traveller 創業者のピーター・ジョーダン氏がモデレーターとなり、シルクロードの更なる観光振興について、観光商品にストーリーや歴史を盛り込むこと及び政府がバックアップするシルクロード大使を作ること、よりよい情報を提供

するためのメディアの活用等について話し合いが行われました。政府、民間組織、学術機関等から約 50 名が参加し、更なるシルクロード観光を探る充実したセミナーとなりました。



左上 UNWTO タレブ・リファイ事務局長

右上 観光庁 山口裕視次長

左下 参加者

右下 パネルディスカッション

同セミナーのプログラムはこちらのリンクからご覧ください。

http://dtxqt4w60xqpw.cloudfront.net/sites/all/files/pdf/0920gai_ding_jata.pdf

同エキスポの翌日、世界観光の日(World Tourism day) である 9 月 27 日にシルクロードセミナーでゲストプレゼンターを勤めたホリーモリス氏は、2014 年のテーマである「観光と地域の発展」に因んで三重県・鳥羽市を訪れ、海女漁業の取材を行い、海女漁港の振興、海女文化の保存・継承について意見交換を行いました。



写真前 ホリーモリス